

市民リポーターだより No.3

がえります。「50年もの」でさえ「若すぎて」使えないそうです。曲げわっぱに使われる秋田杉は、160年から300年は経過したものの。私が訪れたときには、200年もの「天然秋田杉を自然乾燥させていました。原木はあまり無く、よく製材所で見かける黒くなった製材が、幾重にも積まれていました。この秋田杉は、約2年間自然乾燥させるそうです。外見は黒くなっていますが、部材取りする前にかんながけすることによって白木の板になるそうです。

次に、工場の中を見学させていただきました。かんながけされ、切り分けられる材料



かんながけされ、切り分けられる材料



曲げたあと、木ばさみで固定し、乾燥させます



ここで部材が煮られます

触り、取り出しますが、素人には触るのがとても無理なほど熱いものです。間髪を入れずに、曲げの作業に入ります。丸く型をとったところで、木が戻らないように木ばさみで固定し、そのまま乾燥させます。その後接着し、桜の皮で編み込み、底入れをします。最後に塗装して完成です。

いろいろな使い道



サンドペーパーで、きれいにします



接着剤をつけ、底板をはめ込みます

つと同じ商品しかないね」とパンフレットを見て言われているそうですが、実際は、製造権は持っているても販売権が無い商品が多数あるため、残念ながらパンフレットには載せられません。

そして、プラスチックなどの様に、簡単に大量生産されたものではないので、価格は高額だけれども、丁寧に扱えば割れて形が無くなる物ではないため、「一生使える」と話してくれました。

伝統工芸を

伝えるために

曲げわっぱができるまでを一通り見てから、実際に曲げわっぱを作ってみたいという思いにかられ、大館曲げワツパ協同組合に制作体験ができないか問い合わせをしました。すると、子どもたちに曲げわっぱ作りを教える「体験学習」があることを知り、今回は特別に、参加できることになりました。

この体験学習は、国の経済産業省が平成13年度から特別枠として、文化庁などと連携して実施する「芸術文化・伝統文化による地域活性化トータルプラン」の一環として行われているものです。そして、文化庁の「学校の文化部活動